

# 八女地区社会教育委員連絡協議会視察

## 《報告書》

日時：令和元年9月19日（木）10時10分到着、10時20分開始、12時10分終了

場所：リーパスプラザこが交流館 302会議室（対面形式）

参加委員：松本議長、國友委員、平島委員、村山委員、井浦委員

八女地区：計22人（別紙参照）

### 意見・質疑応答

- ・市長、教育長、教育委員との意見交換は素晴らしい取り組みと思った。
- ・本町ではまだ「提言」に至っていない。社会教育計画はあるが、計画だけでは足りないと思っている。
- ・合議制の社会教育委員の会議で「笑顔のつどい」のような自主事業を行っているのは珍しい。委員の結束力も強まると感じた。
- ・提言を作るにあたり「家庭班」「地域班」の2グループでアンケート調査を行っていたのは参考になった。
- ・古賀市は共働き世帯が多いか、核家族化しているか？  
→古賀市は急激な人口増加により平成9年に単独市制移行した。そのため、街の構造としては転入住民が多く共働き世帯も多いと考えられる。また、都市計画区域の平均世帯人数は約2.3人、都市計画区域外で約2.7人であるので、核家族化は進行していると考えている。
- ・古賀市の社会教育委員の活動は月一回の定例会がメインか？  
→笑顔のつどいの準備のため、各分科会で自主的に集まって活動している。また、県等で開催される研修会にも積極参加している。
- ・笑顔のつどいで発表する多様な団体は、どうやって発掘しているのか？  
→社会教育委員は多様なバックグラウンドを持つので、それぞれ知りうる活動を持ち寄り互選で選定し協力を依頼している。
- ・どうやって「笑顔のつどい」を根付かせたのか、市民へ浸透させるのは難しいと思うが？  
→社会教育委員それぞれの活動の中で根付かせていった。また、広報紙、各種団体や小中学校での周知などあらゆる手段を使って告知している。

- ・社会教育委員の活動は市民に認識されていないことが多いがどうしているか？  
→笑顔のつどいや活動報告書の発行などで積極的に活動の見える化を図っている。
- ・本市では教育委員と社会教育委員の交流が今年で3回目となる。その中で、学校だけでできることの限界やPTA活動の中に社会教育の要素を取り込む必要があると考えている。
- ・提言書の中で、各団体の意見や課題の抽出にあたりどのような手法を用いたのか。  
→アンケートは提言書を作成するうえでとても大切であるため、校長会・教頭会の理解を得たうえで児童生徒にたいせつさを伝えたため非常に高い回収率が実現できた。  
→「地域班」では、各種団体を直接訪問してアンケートを収集した。
- ・寺子屋や通学合宿など多くの協力が必要と思われるがどのように依頼しているのか。  
→寺子屋や通学合宿を運営しているのは、地元有志や中高生のボランティアであり、地域で自発的に「寺子屋グループ」「通学合宿グループ」などが生じて運営されている。

#### 集合写真

(写真省略)